## ◆ 平成17年度日本小児アレルギー学会臨床研究奨励賞受賞
## 東日本旅客鉄道株式会社　産業医　神奈川　芳行（医学部14期生）

去る11月20日に福井市（福井フェニックス・プラザ）で開催されました第42回日本小児アレルギー学会総会において、本学医学部14期生の神奈川芳行先生（医学部衛生学講座非常勤助手）が、日本小児アレルギー学会誌第19巻第１号に掲載された論文「食物アレルギー患者がアナフィラキシーを誘発した際の食品形態、販売形態、対処方法及び食品原材料名等の調査結果について」により、「平成17年度日本小児アレルギー学会臨床研究奨励賞（フクロウ賞）」を授与されました。

この賞は、平成17年度から新たに設けられ、「臨床的に優秀で今後の臨床研究の発展が大いに期待され、アレルギー疾患患者の予後改善、ＱＯＬ向上、あるいは喘息死防止に寄与することが期待されるもの」及び、「奨励賞を授与することにより今後の研究に有効に生かすことが期待されるもの」に授与されるものです。また、大きな組織に所属せずに研究を継続したことも評価の一つになったとのことです。

神奈川先生は、食品衛生法によるアレルギー表示が開始されて間もない平成13年７月から平成15年６月までの２年間、厚生労働省医薬局食品保健部(当時)において食品表示を担当していました。その後、現在の職場で産業医として勤務する傍ら、食物アレルギーの疫学研究を継続し、今回の受賞となりました。

このように産業医として働きながら、学会から賞を頂くということは、全国で活躍している卒業生にとっても大きな励みになることと思います。神奈川先生は、「この経験を、産業保健の分野における適切なリスクコミュニケーションに資する研究に発展させたい」と抱負を語っていました。

（衛生学教授　川本　俊弘）

## ◆ メンタルヘルスに関する講演会開催

平成17年12月５日（月）及び12月12日（月）の両日、ラマツィーニホール小ホールにおいて、メンタルヘルスの講演会が開催されました。

この講演会は、昨年に引き続き開催されたもので、産業生態科学研究所 精神保健学 永田頌史教授による講演が行われました。

第１回目の講演は12月５日に、事務職、医療技術職、看護職の管理職等を対象に開催され、演題は「こんな時どうする…人の問題、その他の問題」で、約100名の参加がありました。第２回目の講演は12月12日に、事務職、医療技術職、看護職等の職員を対象に開催され、演題は「こんな時どうする…自分の場合、同僚の場合」で、200名を超える参加がありました。

今回の講演は、事例を中心に質問形式で行われ、皆さん質問事項について真剣に対応等を考えていました。講演の中で、「最も重要なことは悩み等自分自身で抱え込まず、同僚や上司或いは相談窓口等に相談すること」など１時間程講話があり、非常に有意義な講演会でした。

今後も、職員の健康管理の一環として、このような講演会の開催を検討したいと考えております。

最後に、２日間講演を快く引き受けていただいた永田教授にお礼を申し上げます。

（職員課）

**産業医科大学メンタルヘルス相談受付窓口**
**（健康管理センター：八谷百合子保健師）**

**メンタルヘルス相談希望者**

↓

**八谷百合子保健師（P7147）**
**または、健康管理センター（内線3334）**

↓

**産業医**　　**心理相談員（学内・学外）**

※できるだけ相談者の御希望に沿うようにしていますが、予約状況により、相談時間等が希望に沿えない場合もあります。